

福島小だより

学校通信

めざす児童像：考える子 やさしい子 元気な子
令和5年12月1日 第9号



甘楽町立福島小学校
校長 新井 綱人

○冬の足音が聞こえます

例年よりも暖かい11月でしたが、浅間山も雪化粧をして、本格的な冬が間近に迫っているように感じます。

11月は、PTA廃品回収、持久走大会、校内絵画展、PTA文化行事と、保護者や地域の皆様に多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

早いもので、今年も残すところあと1ヶ月となりました。インフルエンザの流行が心配されますが、ご家族の体調管理にご留意いただき、子どもたちが2学期のまとめをできますよう、引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

○なかよし旬間

なかよし集会

なかよし旬間では、様々な活動を通して、一人一人が「人権」について正しく知り、どう行動すべきかを考えます。初日の11月1日には「なかよし集会」を開き、児童会本部が「なかよし旬間」や「人権」についての説明をしたり、「幸せなら手をたたこう」を全校児童で歌ったりしました。最後に校長から「言葉は薬」という話をしました。たった一つの言葉で、友達を元気にしたり癒やしたり心を温めたりすることができます。そんな良薬になる「ニコニコ言葉」をたくさん使って、今まで以上に笑顔あふれる学校、笑顔あふれるクラスにしていけるようにと話をしました。



人権教室

甘楽・富岡地区人権擁護委員の皆様のご協力による「人権教室」を行いました。1年生と4年生を対象に、それぞれの学年の発達段階に合った紙芝居を読んでもらうと、その内容について意見交換をしながら、人権とは何かを知ったり感じたりする機会となりました。1年生の紙芝居は「ずっと友達でいたいから」というお話で、軽い気持ちで意地悪をしてはいけないことや自分から謝れることの大切さなどを学びました。4年生の紙芝居は「白い魚とサメの子」というお話で、勇気と優しさをもつとたくさんの仲間が出来ることや、人を思いやれることも自分らしさ（個性）の一つと言えることなどを学びました。



なかよし話し合い

1～6年生全員が縦割り班に分かれて話し合いをしました。最初に、それぞれの班の6年生が考えた寸劇を見ました。その寸劇は、学校生活の中で友達とのトラブルになりがちな場面を想定したものでした。その場面に応じた行動や気持ちを考え、班のメンバーが役割を交代しながら演技をしました。最後に、ワークシートに活動の振り返りや感想を記入しました。こうした活動を通して、今まで意識してこなかった自分の行動を見つめ直すきっかけになればと思います。



なかよし読み聞かせ

5年生が、寸劇もまじえ、まつながもえさんの絵本「てんぷらばちばち」を全校児童に読み聞かせをしました。読み聞かせの後に、縦割り班に分かれて感想を発表しました。てんぷらに揚げられる様々な素材と人間の個性を重ね合わせ、色々な個性があってよいことを感じたことでしょう。

